

第56回 前立腺肥大症のくすり

前立腺は男性のみに存在する臓器で、尿道の周りを取り囲むように存在しています。前立腺肥大症は字の通り前立腺が大きくなる病気です。前立腺が大きくなる理由はいまだにはっきりとは解明されていません。しかし、80歳までには8割の男性が前立腺肥大になると言われています。

前立腺が肥大することにより尿道が圧迫されるため、尿トラブルが起こってきます。具体的には、残尿感や頻尿、急に尿意をもよおし我慢できなくなる尿意切迫感、尿の勢いが弱く途中で途切れてしまう、おなかに力を入れないと尿が出せないなどの症状が現れてきます。尿トラブルはQOLを損なうため治療の対象となります。一方、前立腺が大きくなっていても、症状が無い方は治療の対象とはなりません。

前立腺肥大症のくすりでもっとも用いられるのが尿道や前立腺の筋肉を弛緩させて尿道を広げる $\alpha 1$ 遮断薬です。 α 受容体は血管にも広く分布しているため、 $\alpha 1$ 遮断薬には血管を広げて血圧を下げる作用もあるので、起立性低血圧の副作用が問題になることがあります。他には、男性ホルモンとの関連が分かっているので、男性ホルモンの働きを弱める抗アンドロゲン薬や、昔から用いられている植物の抽出成分を用いたくすりなどがあります。

それでは当院に採用されている、ものについてみていきましょう。

ハルナール：「ハルン（尿）がよく出るようになる薬剤」「尿の出が青春（ハル）時代のようになる薬剤」より

ユリーフ：尿（ユリン：URINE）のトラブル[排尿障害]を改善し快適と喜び（LIEF）を得ることから、ユリーフ（URIEF）とした

フリバス：尿道（導管=vas）を開放（フリー）し、排尿障害を改善させるという意味から「フリバス」と命名した。

エブランチル：なし

以上の4つが $\alpha 1$ 遮断薬です。

プロスタール：前立腺（Prostatic gland）に作用するという意より命名

アボルブ：なし

以上の2つが男性ホルモンの働きを弱める抗アンドロゲン薬に分類されます。

エビプロスタット：輸入提携先のEvers社（独）とProstate（前立腺）を組み合わせたもの

エビプロスタットは漢方薬・民間医療薬として前立腺肥大症に活用されてきた、オオウメガサソウ、ハコヤナギ、セイヨウオキナグサ、スギナなどの植物の由来する成分が含まれているくすりです。

次回は炎症性腸疾患のくすりです。